

# 対話的アプローチによる保育実習事後指導の実践

—— AI ミニインタビューによる実習の振り返りと課題の発見 ——

利根川 智子\*・音山 若穂\*\*・三浦 主博\*\*\*  
和田 明人\*・織田 栄子\*\*\*\*

**要旨：** 保育者養成にける省察力の育成に関連し、保育実習に臨んだ一人ひとりの学生が実習の振り返りを行うことからの学びと今後の課題の発見を得ることを意図して、AI ミニインタビューの試行に取り組んできている。本稿では、保育実習を全て終えた学生を対象にして、演習プログラムの開発の一試行として実施したAI ミニインタビューの具体的な実施方法と内容について述べ、実践上の課題を検討することを目的とする。保育実習事後指導の一環として行った3時限分の授業時間では、1時限目で実習中の出来事や実践と学び及び今後の課題についての二人組による相互インタビューを実施し、2時限目で8名程度のグループでのインタビュー内容の紹介と同グループ内の学生に共通する課題探し及び課題とその説明の全体発表に向けた準備を行い、3時限目で発表を行った。学生にとっては、共感的に話を聞いてもらいながら自分のストーリーを作成してもらったり自分の課題について発見したり、自分とは異なる見方や考え方を提示されたり、共通する課題を発見したりしながら、実習における発見や学びについて改めて評価をする機会となっただろう。今後の課題として、語られた内容の検討、ペアやグループでの活動の各段階で学生が感じたことや気づき、自らの保育者としての成長をどう感じたか、保育者及び保育実践についてどのように理解を深めたかと実感しているのか等についても検討する必要があるだろう。

キーワード：実践、対話的アプローチ、AI ミニインタビュー

## I 問題と目的

保育者養成において、省察力の育成は重要な課題である。筆者らは、和田ら（2010）<sup>1)</sup>に基づき、ホールシステム・アプローチを養成課程の学びの場に取り入れ、保育実習事前・事後指導を中心とした指導を行ってきた。その中でも、ワールドカフェについては、実施前後の比較により、集団雰囲気や保育者省察尺度に変化が認められ、一定の成果が確認されている（利根川ら、2011；三浦ら、2012）<sup>2)3)</sup>。その一方で、ワールドカフェにおいては、数人でテーブルを囲んで座席移動を繰り返しながらテーマに沿った話し合いを行うため、① 実施には比較的長時間を要すること、② 比較的小規模の集団では実施が困難であること、③ 集団的対話形式をとるために参加者に

\*東北福祉大学

\*\*群馬大学教育学研究科

\*\*\*東北生活文化大学短期大学部

\*\*\*\*聖霊女子短期大学

よっては十分に会話が引き出されず個々の学びにつながらない可能性があることといった課題が明らかになってきている（音山ら 2014）<sup>4)</sup>。特に、実習の振り返りのような場面では、自らの経験をうまく言語化できないままに時間が過ぎ、対話に参加している時間では省察が深まらない可能性も考えられる。そのため、より個人の経験や気づきを積極的に引き出す対話的アプローチが求められている。

そこで、同じホールシステム・アプローチのうち AI (Appreciative Inquiry) における手法の 1 つとして行われるインタビューの利用可能性に着目した。AI はもともと組織変革のための手法であるため、授業や実習指導にそのまま適用できるわけではない。そのため、音山ら (2014)<sup>4)</sup> は参加者の学習プロセスの側面を重視し、教育や保育現場における研修に効果的に活用できるように AI の手法を基盤にした AI ミニインタビューを提案した。実習事後指導の授業において、実習に臨んだ学生が二人組になり相互インタビューを行いながら、自分の体験したことを振り返り、学んだことや保育者としての今後の課題を探していくものであった。現在、AI ミニインタビューを用いた保育実習事後指導における演習プログラムの開発を目指して試行中であり、まずは実践を行いながら効果測定を試みているところである（三浦ら, 2015; 利根川ら, 2015; 音山ら, 2015)<sup>5)6)7)</sup>。演習プログラムについては、90 分授業を基本として考えているが、学生が学びを深めていくために要する総実施時間、各回における時間配分といった大まかな枠組みと具体的な実施方法などはまだ試行錯誤中でもある。

実習における自らの実践に焦点をあてて対話による振り返りの授業を行うため、今回の AI ミニインタビューで、二人一組になり、学生は実習先より返却された実習日誌を用いながら相互にインタビューを受ける。また、これまでの実践から、AI ミニインタビューの実践については、学生の作業状態により 3~4 時限での実施を要することがわかってきているため、今回の実践においては、昨年度までの実施状況や他の実習事後指導の内容から、3 時限分を用いての実施とし、関連した内容であるため時間割に毎週 1 時限設定されている実習指導の時間を 3 週間連続で実施することにした。

本稿においては、演習プログラムの開発の一試行として保育実習事後指導で実施した AI ミニインタビューの具体的な実施方法と実施内容について、学生の実習振り返りと今後の AI ミニインタビューを用いた授業実践上の課題を検討することを目的とする。

## II 学生たちの状況

3 年次で保育実習指導及び保育実習を履修していた。学生たちは、6 月下旬から 7 月上旬にかけて保育実習 I (施設)、8 月下旬に保育実習 I (保育所)、9 月上旬に保育実習 II (保育所) を終えていた。保育実習直後から事後指導が始まり、グループでの対話による実習振り返り、グループでの実習報告会の準備及び報告会を終えている。過年度までの様子から、グループでのテーマ

を決めた対話に加え、自らの実習に焦点をあて、自分だけの体験をインタビューとして振り返る AI ミニインタビューが必要と考え、実習後約 1 か月半の時期に実施した。

### III AI ミニインタビューの実施と内容

各時限における内容の詳細と、学生による記述の例を示す。

#### 1. 1 時限目：ペアでのインタビュー

1 時限目の時間配分と内容を表 1-1 に示す。1 時限目は、AI ミニインタビューの初回に当たるため、授業開始時に AI や AI ミニインタビューとは、意義や目的は何か、授業の実施方法などについて説明した。

##### 1) 持ち物・配布物

返却された実習日誌をもって授業に参加するように予め伝えていた。開始時に、画用紙、マジック、全 3 回の流れを示したプリント、インタビュー用紙のプリントを配布した。4 色のうち好きな色の画用紙を持っていくように伝えた。後から同じ色の画用紙を持つ者とペアを組むことを、この段階では学生は知らなかった。

##### 2) AI ミニインタビュー及びインタビューの目的の説明

授業の冒頭で AI 及び本日举行うミニインタビューについての理解をするため、それらの概略を説明した。AI ミニインタビューの説明としてプリントに記載した内容を表 1-2 に示す。

##### 3) AI ミニインタビューの意義、目的の説明

表 1-3 に説明内容を示す。プリントを用いながら、AI ミニインタビューは議論したり否定したり、あるいは足りないところを考えて反省点を述べる評価を行うためのものでもない、ポジティブな過程であることを説明した。また、AI の原理なども説明することにより、学生がこれからすることへの理解や基本的な心構えができるようにした。

##### 4) AI の目的の説明

学生たちには本日から始まる AI ミニインタビューの目的が 2 つ呈示された。一つ目は、「実習での体験を振り返り、保育者としての育ちについて考え、これからの学生生活の中でどのように成長していくのかを発見し、グループでの活動や発表を通して共有していくこと」であった。二つ目は、「発見、理想の将来を描く、計画する、持続することを念頭に、今後の取り組みにつなげていくこと」であった。

##### 5) AI ミニインタビュー 3 時限分の概要の説明

学生たちに 3 時限分の内容に見通しがつくよう、プリントを用いて説明をした。プリントの記載事項を表 1-4 に示す。

1 時限目では、ペアを作って相互にインタビューをすること、基本的にはインタビュアーが相

表1-1 AI ミニインタビュー 1 時限目の時間配分 (目安)・内容・留意点等

時間	内容・留意点等
開始前	<p>(各自「実習日誌」を持ってくるように伝えてあった。)</p> <p>本日使用する物を参加者に配った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>画用紙4色から好きな色を1枚</li> <li>ペアやグループ作成時に使用するので各色同じ枚数を人数分、また、書き損じに備えて各色の予備を準備した。</li> <li>紙用マジック (1人1本、黄色以外)</li> <li>AI ミニインタビューの説明と各回の内容を示すプリント (1人1枚) <ul style="list-style-type: none"> <li>※詳細は表1-4に記載</li> </ul> </li> <li>AI ミニインタビューとは何かを知り、学生が全3回の活動に見通しをもち、参加しやすいようにするため、説明時に使用した。</li> <li>インタビュー用紙 (1人1枚) ※詳細は表1-5に記載</li> </ul> <p>学生がペアになってインタビューをするときに使用するための説明やペアの相手への基本的な質問文やお礼の言葉などを記載していた。学生たちは、この質問文を利用し、話の内容を深める質問を追加してインタビューを行った。</p>
開始～10分 10～20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI ミニインタビューを行うことの説明 ※詳細は表1-2に記載</li> <li>二人組でのお互いからの問いかけにより、振り返りを行い、学習を深める対話が始まることを伝えた。</li> <li>AI ミニインタビューの意義及び目的の説明 ※詳細は表1-3に記載</li> <li>ポジティブアプローチであること、そして、AI ミニインタビューでは肯定的な認識を引き出すことを意識づけた。</li> <li>今日から始まるAIの目的の説明</li> <li>保育実習における体験を振り返り、保育者としての育ちについて考えること、そのことを通して、これからの学生生活の中でどのように成長していくのかを発見し、グループでの活動や発表を通して共有していくことと、発見、理想の将来を描く、計画する、持続することを念頭に、今後の取り組みにつなげていくことを説明した。</li> <li>AI ミニインタビュー3時限分の概要の説明 ※詳細は表〇に記載</li> <li>プリントを使用して学生たちが各回の内容とつながりを知り、3時限分の見通しをもって参加するための説明をした。</li> <li>AI ミニインタビュー実施方法の説明 ※詳細は表1-5に記載</li> </ul> <p>二人組になり、室内のリラックスできる場所で相互にインタビューをすること、開始時には実習日誌を読むこと、インタビューはインタビュー用紙の質問内容に沿い、かつ、対話するような気持ちで相手の話を引き出せるような質問を考えながら行うこと、インタビューされる人はストーリーを作る気持ちで話をするなどを伝えた。また、インタビュー後には、相手の成長ストーリーを画用紙にまとめることを伝えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ペアを作り、日誌を見直してからインタビューを実施</li> <li>今回は、普段から親しいことにこだわらず、話してみたい人、そして、画用紙が同じ色のの人を探してペアになるように伝えた。ペアになったら、話がしやすいように適度な空間を取って、室内の落ち着いた場所に移動するように伝えた。着座したら、全員にペアとなる相手がいることを確認した。各自で自分の日誌を読み返したら、インタビューを開始するように指示した。インタビュー役の順番は学生同士で決めた。教員は、ペアを作りやすいようにかかわったり、ゆったりとした雰囲気に対話ができるように状況に留意・配慮した。</li> </ul>
20分～90分	<ul style="list-style-type: none"> <li>インタビューにおける聴取内容からストーリーを作成</li> </ul> <p>画用紙を使用する方向(縦・横)は自由だった。まとめる際には、ストーリーとしての起承転結を持たせ、今回学んだことや保育者として成長するための今後の課題を文字や絵で記載することを伝えた。(次回授業時までには下書きを完成させた。)</p>

手のストーリーを簡潔に表すようなキーワードを探してタイトルをつけてストーリーを作成すること、ストーリーは文字や絵により画用紙にまとめること、画用紙を用いてストーリーを他の人に紹介することを伝えた。

2時限目では、ペアを4つ程度つないで8人グループになり、1限目のパートナー及びパートナーのストーリーを紹介すること、全員のストーリーの発表が終わったらグループ全員のストーリー

表 1-2 AI ミニインタビューの説明

## AI ミニインタビューについてのプリント記載事項 (3 時間分の流れのプリントの冒頭)

## 1. AI とは

## ・ Appreciative

真価を評価する

## ・ Inquiry

問いかけをすることによって理解する過程

→問いかけをすることを通して、個人、グループや組織の中にポジティブな潜在力に光を当て、その潜在力を強化しようとする

二人組相互でのインタビューを通して、自分の体験を見つめ直し、そこから、自らの強み、長所などポジティブな面に注目していき、自分の持つポジティブな可能性を發揮したら？と考えてみましょう。可能性を發揮するために、自分がこれからどうしていくと良いのかについて目標を立てて実行に移していきましょう。

そして、グループをつなげてストーリーを共有していく中で、目指す保育者になるための課題を探り、これから何を学んでいくのかを考えていきます。

最後に、全員に向けて、グループでの話し合いを紹介します。お互いの話す内容に興味をもつことで、更に、視野を広め、考えを深めていきましょう。

※ AI は、もともと組織変革の手法です。今回の AI ミニインタビューでは、実習の振り返りとそこから学びを得るようにアレンジしています。

表 1-3 AI ミニインタビューの意義・目的の説明、AI の原理の概要

ポジティブな点に着目することから出発し、“強み”や“長所”、“大切にしたいこと（価値）”といった前向きな側面を見出すことを重視します。このやり方は、「ポジティブアプローチ」と呼ばれます。

AI も“反省会”も、実習の体験を見つめなおすという点では共通していますが、アプローチが異なります。AI は、意欲や主体性を引き出しながら、持続的な変化（成長）を促すことに主眼をおくという点で、“育てる反省会”と考えるようにしましょう。今日は、質問をすることにより、お互いを育て合う機会にしていきたいと思います。

これから皆さんが参加する AI では、まず 2 人一組になって相互にインタビュー (AI ミニインタビュー) を行います。1 人が話し手、もう 1 人が聞き手となって、実習中に体験したことを詳しく聞き取り、それらをストーリー（物語）の形にまとめます。ストーリーにすることで、一人ひとりの“強み”や“長所”、“大切にしたいこと（価値）”を明らかにし、他の人にも分かり易い形で表していきたいと思います。実習中の出来事を一人で考えるのではなく、2 人で一緒に捉えなおしていくことで考えを深めていきます。一人ひとりのストーリーを紹介し合い、まずは 2 人で共有することで（ストーリーテリング）、振り返りを深めていくことを目指していきましょう。

そして、グループをつなげてストーリーを共有していく中で、目指す保育者になるための課題を探り、これから何を学んでいくのかを考えていきましょう。

最後に、全員に向けて、グループでの話し合いを紹介していきます。お互いの話す内容に興味をもつことで、更に、視野を広め、考えを深めていきましょう。

AI の原理（津村・星野，2013）<sup>8)</sup>

- ① 構成主義原理：問いかけ→将来を構成
- ② 同時性の原理：問いかけと変化は同時  
問いかけ→発見、学び、将来像の対話
- ③ 予期の原理：変革・改善のリソースは将来像や日常会話にある
- ④ 詩的原理：ストーリーがある  
過去、現在、未来を描き続けている
- ⑤ ポジティブ原理：変革のための推進力

表1-4 AIミニインタビュー3時間分の流れの説明プリント記載事項

**1 時限目の説明書き：**

- ・ペアを作って、相互にインタビューをします。
  - ・インタビュー内容をもとにして、ストーリーを画用紙に示しましょう。(絵、文字など)
- <ストーリーをまとめるには>

## ①キーワードを探し、タイトルにしよう

例)「まずは保育者が楽しむ!」、「子どもたちががんばったこと」

## ②インタビューした相手のストーリーを、画用紙を示しながら発表できるように作成してください。

## 記載・作成する内容：

- ・インタビューした人の学籍番号と氏名、インタビューされた人の学籍番号と氏名
- ・インタビュー1) 起承転結+インタビュー2)：絵など用いてみよう

**2 時限目の説明書き：**

- ・8人グループになりましょう。

## &lt;グループの作り方&gt;

- ・8人程度のグループをつくります
- ・周りを見渡して、グループとして画用紙の色が3色以上になるように、4ペア・8人程度、つながっていきましょう。
- ※グループができれば、模造紙一枚と青い画用紙一枚をホワイトボード前に取りにきてください。

- ・8人で、インタビューした相手のストーリーを紹介し合います。

## &lt;グループ内での発表タイムの過ごし方&gt;

## 発表者：

パートナーを紹介しながら、画用紙を使ってインタビュー内容の概要を発表します。

※発表の順番は自由です。

- ・グループ全員のストーリーから、「あなたがすてきな頼れる先生になるため」にこれから何を学ぶ必要があるのかを、考えてみましょう。模造紙に自由に書き込みながら端的に示す3~5個のキーワードを探します。

## &lt;グループ内でのまとめ方&gt;

- ・話し合いの成果をグループ発表するための準備をグループ全員で行いましょう。
- ・キーワードの解説やそのキーワードを選んだ理由、エピソードの紹介を用いるなど、伝わりやすくまとめましょう。
- ※メンバーの話しに出てきたのはどんなキーワードだったのか、そこから何を学ぶ必要があるかを考えてまとめます。

**3 時限目の説明書き：**

- ・グループでまとめた内容を全員に向けて発表するための準備をします。
- ・グループごとに、全員に向けて発表します。
- ・聴く人は、それぞれのグループが検討したテーマのどんなところが興味深いか、共感するところはあるかなどについて考えてみましょう。

から「あなたがすてきな頼れる先生になるためにこれから何を学ぶ必要があるのか」に共通することをグループで考え、それらを端的に示す3~5個のキーワードを探していくことを説明した。

3時限目は、グループでまとめた内容を全員に向けて発表するための準備と、グループでの全体発表を行うことを説明した。

**6) インタビュー方法の説明**

インタビュー用紙に今日の質問が書いてあるので、インタビュアーは質問に添って話を詳しく聞けるように対話をする事、インタビューされる人はインタビュアーがリードしてくれると思って安心してインタビューに臨むこと、実習の中での大きな出来事について話しても、日常の

表 1-5 インタビュー用紙に示された教示と質問内容

教示内容・質問内容
<p>インタビューの時間は一人 30 分程度です。</p> <p>積極的に耳を傾け、相手がイメージしやすく、話しやすいように配慮して質問をします。話す人は、リラックスした気持ちで、ストーリーを語るように話してください。</p> <p>聴く人は話を聞きながらそのポイントをまとめましょう。具体的に話を引き出すように頑張ってみてください。単なるエピソードではなく、その背景や、それまでの経緯、得られた示唆等、豊富な文脈をストーリー化していくことが大切です。</p> <p>二人で実習を振り返り、それぞれのストーリーを作っていきます。</p>
<p><b>質問 1</b></p> <p>あなたが実習によって経験した、「最もワクワクした（素敵な、素晴らしい、価値のある、大きな学びを得た）出来事や実践」を話してください。</p> <p>その時、あなたは、まわりの大人や子どもはどのような様子でしたか。あなたは、どのような動きや役割をしましたか。</p> <p>そして、あなたや子どもたちは、どう変化し、成長しましたか。</p> <p>ストーリーのように順を追ってお話してください。</p> <p>（メモ欄：A5 サイズ程度の空白）</p> <p>（ここまでで A3 向かって左半分を使用）</p>
<p>（A3 向かって右半分を使用）</p> <p>ありがとうございました。それでは、次の質問にうつります。</p> <p><b>質問 2</b></p> <p>「最もワクワクした出来事」から得た学びはどのようなものでしたか。そして、そのことを経験して、あなたの保育観や子ども観にどのような変化が起きましたか。保育者としてどのように実践に活かすことができますか。</p> <p>将来、あなたがすてきな、頼れる“先生”になるためには、これから何を学び、どのようになる必要があるでしょうか。</p> <p>（メモ欄：A5 サイズ程度の空白）</p>
<p>二人で充分にお話ができたら……</p> <p>実習中の（ふざわしい言葉を入れてください）なことをお話しいただきまして、どうもありがとうございました。今日のインタビューはこれで終了です。</p> <p>（一緒にストーリーを作成し、紙面を作ってくださいませよう。）</p> <p>インタビューが終わったら……話のポイントをまとめよう</p> <p>（一緒に紙面を作成したら役割を交代してもよいですし、先に二人のインタビューを終えてから紙面を作成してもよいです。二人が実施しやすいように決めてみましょう。）</p>

中であったことを想起しても、ポジティブな学びがあればよいことを伝えた。また、ストーリーの内容は、インタビュー 1 で聞いた内容を起承転結のあるストーリーにした上で、インタビュー 2 の内容を加えるように伝えた。ストーリーができたら、あるいは、作成途中で不安になった場合には、パートナーと一緒に内容を確認するように勧めた。インタビュー用紙に示した教示と質問内容を表 1-5 に示す。

#### 7) ペア作成、インタビューの実施

画用紙が同じ色の人同士で 2 人組を作り、2 人組ができたら、話をしやすいように座り、各自で実習日誌に目を通した後、インタビューを開始した。学生たちは、インタビュー用紙を用いながら、各々が工夫して質問を考えて対話をしていた様子であった。教員は、室内を回りながらリラックスできる雰囲気になるように配慮し、ペアへの質問をうまく考えるための質問や相談等を受けながらそれとなく見守った。

8) インタビューのまとめ、学生が作成したストーリー（画用紙）の例

インタビューが終わったペアから、ストーリーを作成した。その際、お互いがインタビュー用紙に書きとった内容を黙って作成するペア、話しをしながら作成するペア、配られたペン以外でも手持ちのペン等で表現に幅をつけようとするペア、教員に紙面の構成を相談するペアなどがあった。学生が作成したストーリー（画用紙）の例を図1-1~4に示す。学生たちが書いた内容は、子どもの観察から得られた学び、子どもと保育者の観察から得られた学び、自らが子どもに関わることによって得られた学び等、様々であった。

授業終了時に、学生たちは次回の授業時の持ち物を伝えられた。

2. 2時限目：グループの作成とグループ活動

2時限目は、グループワークを行った。概ね次のような時間配分と内容であった。表2-1に示す。

1) グループの作成

学生同士で声を掛け合って、グループを作り、場所を確保した。

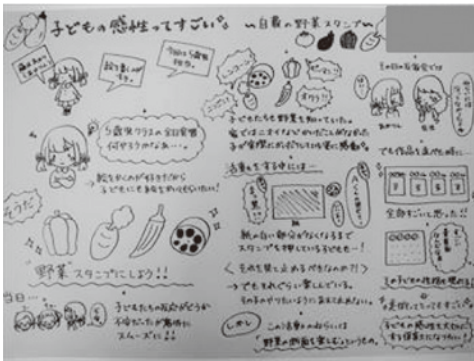


図1-1 子どもの感性ってすごい

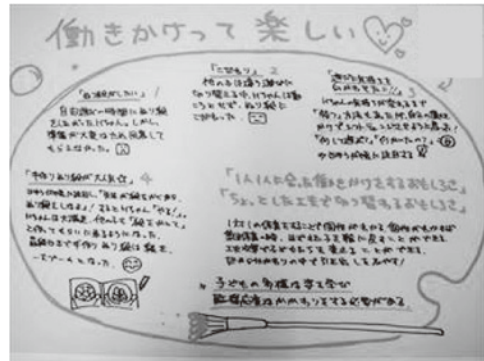


図1-2 働きかけて楽しい

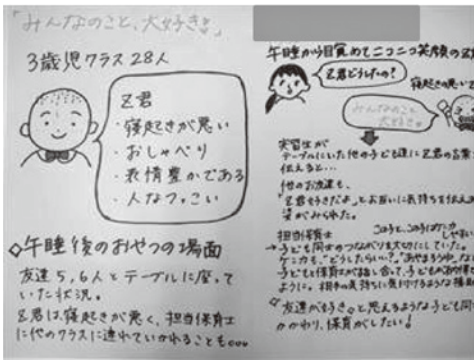


図1-3 みんなのこと、大好き

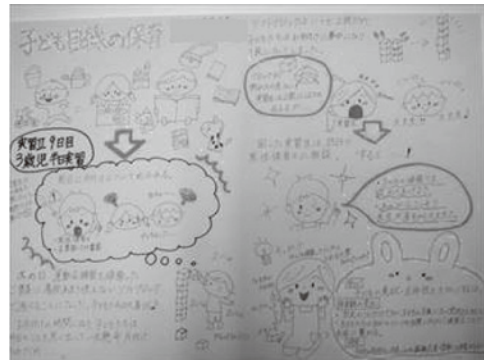


図1-4 子ども目線の保育



表 2-1 2 時限目の時間配分 (目安)・内容・留意点等

時間	内容・留意点等
開始～10分	・ストーリー作成の画用紙の仕上げ 人により異なる作業の進み具合に配慮する。
10分～15分	・グループ作成、模造紙と画用紙とマジックの配布 画用紙の色を3色以上集めながら8人程度のグループになる。室内で、メンバーが話しやすい場所で模造紙1枚を広げられる大きさに机と椅子を並べる。教員は、スムーズにグループを作るような声掛けをしたり、ペアは別れないように声をかけたりする。グループができたなら、模造紙と画用紙をグループで各1枚、マジックを人数分取りに来るように声かけする。
15～任意(30分程度)	・グループ内での発表 任意の順番で発表し、メンバーは発表内容に質問をしたり、共感の言葉をかけ合ったりする。また、共感したことや感動した言葉、大切だと感じたこと、気づきなどをメモする。教員は、ストーリーの発表が残りの授業時間の約半分で終了するようにそれとなくペースを作り、また、グループの雰囲気良くするように見守る。
～課題探し	・グループでの話し合い：キーワード探し 「あなたがすてきな頼れる先生になるため」にこれから何を学ぶ必要があるのかを、端的に示す3～5個のキーワードを探す。教員は、質問や相談があれば応えながら、グループ活動を見守る。

## 2) 配布物

グループで発表する際に、模造紙と画用紙をテーブルで一枚、マジックを人数分取りに来て、模造紙はテーブルに敷くことを伝えた。

## 3) グループ内での発表

まとめてきたストーリーを発表した。学生たちは質問をしたり共感したり、ストーリーにおけるキーワードを模造紙に書き込んだりしながら聴いていた。

## 4) グループ内での話し合い：キーワード探し

発表後、グループ内の全員に共通する「あなたがすてきな頼れる先生になるためにこれから何を学ぶ必要があるのか」を、端的に示す3～5個のキーワードを探した。その際、学生たちは、模造紙に書き込まれた言葉のうち重要だと思われるものに印をつけたり、言葉と言葉をつなぎ合わせたり、言葉の中身を吟味したりしながら話し合いを行っていた。模造紙の例を図2-1～2に示す。教員は、グループでの話し合いが行き詰まったり相談を受けた際に、グループでの話し合いについて質問を受けたり、共感した言葉やハッとした言葉、感動した言葉などをヒントに課題を見出していくので、発表内容を振り返ったり質問したりしながら対話してみるといったヒントを出したりした。

キーワードを絞ったグループから、画用紙にキーワードとその言葉に込めた意味、今後の学び等を書き込み、発表の準備を始めた。

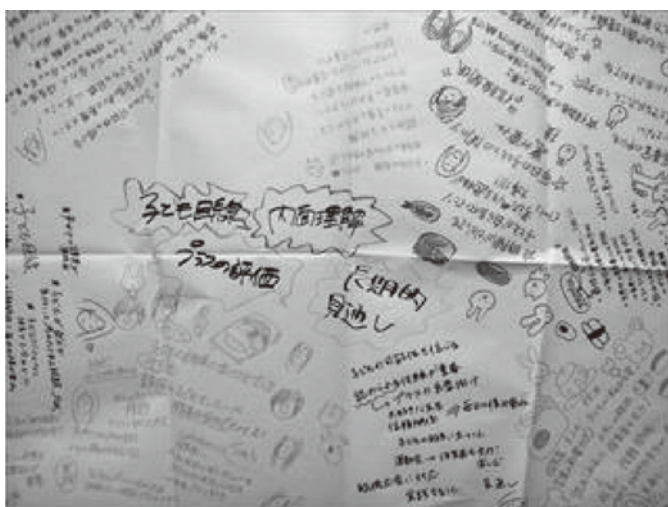


図2-1 子ども目線，内面理解，プラスの評価，長期的見通し

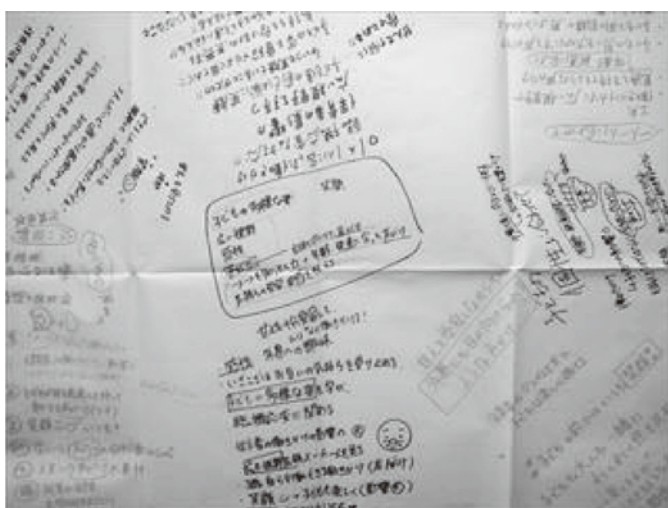


図2-2 子どもの多様な姿，声かけ，一人ひとりを知っていく力

### 3. 3時限目：まとめと発表

3時限目は，概ね，次のような時間配分と内容であった。表3-1に示す。

開始後20分程，グループ発表の仕上げと準備を行った。その後，各グループはキーワードを紹介し，それぞれの言葉の意味や今後の学び等について発表を行った。また，全体発表を聴く人は，それぞれのグループが検討したテーマのどんなところが興味深いか，共感するところを探しながら聴くように伝えてあったため，学生たちは他のグループの発表を聞く際にそのようにして

表 3-1 3 時限目の時間配分（目安）・内容・留意点等

時間	内容・留意点等
開始～20分程度	・発表準備の仕上げ キーワードとその説明文の清書，先週話し合った内容などを確認し，発表に備えた。教員は，グループ間で作業進度が異なる場合には，配慮した。
20分～90分	・発表する 発表順は学生か教員が決める。画用紙を持ち，キーワードを提示しながら発表した。 ・発表を聞いた感想を書いた。

表 3-2 画用紙に書かれたキーワードと説明の例

<p>キーワード：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものチカラを信じる（子どものもつ力・可能性）</li> <li>・保育者の影響力（先生自身が楽しむ）</li> <li>・子どもの感性を育てたい</li> <li>・子どもの楽しいを発見・研究する</li> </ul> <p>説明：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものもつチカラは大人が思っている以上。見守るはただ見守るじゃなくて，子どもの可能性が最大限に生かせるように，全て手を貸さず，あえて一步引いて。</li> <li>・先生がまず楽しむ→その姿をみて，子どもたちも興味をもつ，楽しめる 先生の言葉がけ“できるんだよ！！”→子どもたちが頑張ろうと思う（信頼関係あってこそ）</li> <li>・子どものもつ<u>独特の世界観</u>を引き出す 感性を育てる，豊かにする →個性として受け止める</li> <li>・子どもが楽しめることは何か，常に考え追及すること。今子どもたちは何をすることが好きか(手遊び，うた)，日々観察する。子どもが興味・関心を示すように先生がまず努力すること。</li> </ul>
---

いた様子であった。画用紙に書かれた内容の例を表 3-2 に示す。

#### IV 取組の結果と考察，今後の課題

##### 1. 相互インタビューについて

1 時限目の 2 人一組の相互インタビューでは，ペアの相手から質問をしてもらい，自分の実習での出来事やその時の状況，子どもの気持ちや本人の気持ちなどを言語化して話した。全員が，観察実習や参加実習，部分実習や責任実習等において，自分の成長や学びにつながった一連の出来事を一つのストーリーにした上で，一人ひとりが「すてきな，頼れる」の意味をそれぞれが考え，なりたい保育者像とそれに向けてどんなことをするのかについて，各自の言葉で明確にしながらまとめていた。

自らが実習で体験したことをストーリーにしてもらうには，他者にわかりやすく話すこと，他者の視点からの質問を受けることにより，自分一人で考えるよりも，より客観的に事実を捉えて解釈したり，異なる視点から解釈をしたりすることにつながったのであろう。実習日誌に書かれた過去の自分が意味づけたこととは異なる視点やその視点に基づく発見をしたときの学生は，とても嬉しそうな表情をすることがあった。ポジティブな成長が見つからないと教員に相談をした

学生も、少しアドバイスをしたり、相手からの質問によって考えたりすることにより、実習中に発見をしたこと、学びを深めたことを再認識していた。

学生たちは普段からグループワークを経験しており、初対面の相手と話すのに「慣れている」と口にすることがある。しかし、ペアの相手によっては、話をうまくまとめることが出来なかったり、言葉少ななペアの話を聴くことや感覚的に理解をしているつもりになることによる誤解を確かめながら話を進めたり、相手の話を引き出す働きかけをしたりする必要があっただろう。学生が学生のインタビューを行う姿勢、話の内容への気づきの視点が浅ければ、話ができず、聞き取りが浅くなる可能性がある。インタビュー中に雰囲気の良いだけで核心に迫ることが無かったり、表面的なお話になったりしていれば学びにつながらない。今回は、少し早めに終わったペアで少し所在なきげにしているように見える学生や援助を求める学生に対して助言や具体的な質問内容を提示したり、出来事が保育という分野の中でどのような意味を持つのかななどを解説したりした。相互インタビューも学びの過程であるとすれば、質問内容について自由な対話とそこからの気づきに支障の出ない範囲で相手の話を引き出しやすいように質問例を増やす、もう少し構造化する、対話が続くような質問を考える練習時間を作るといった改善を検討したり、対話を大切にすることと教員の関与のバランスを取ったかかわりを検討したりしていくことが必要だろう。

また、今後の課題部分を具体的な成長の目標と絡めて考えられていた学生とそうでない学生がいたことも課題である。ストーリーの作成についても、今回は起承転結をつけてまとめるように学生に伝えたが、実習中の自らの成長を促した出来事は、いつも起承転結のパターンで進むわけではなかっただろう。学生によっては、話が出なかった内容を抜いて、起承結の形にしていた。この指示の出し方についても、必ずしも起承転結にこだわる必要はなかったと反省したため、次回は伝え方を変更する。

## 2. グループでの対話とキーワード探し

グループになって最初にしたのは、各ペアのストーリーと課題をグループ内発表で共有することであった。その後、グループ内のメンバーで共通する課題や課題の克服方法などを探った。グループに各一枚配布された模造紙は、写真にあったように、発表を聞いて共感したり興味をもったりした言葉、発表のキーワードと感じた言葉などを文字や絵を用いて、一人ひとりによって思い思いに書き込まれた結果、かなりのスペースを文字や図示・絵等で占められていた。どのグループにおいても、話を聴いて言葉や図や絵で示していき、その時々で、グループの中でペアの話より具体的に引き出すような問いかけをしたり、類似した発見のあった出来事を思い出した学生がその出来事を紹介したり、他の学生が発表した出来事について別な見方を述べたりしながら、対話が行われていた。グループワークの中で他の人の体験したことを理解していく中で課題を発見し、共通する課題を探すことも、他者と共通する部分を見出すことができたり、自分とは異なるが大切な考えであることを発見したりといったように、自分の実習における発見や学びについ

て改めて評価する機会となるだろう。また、今後の実施に伴い、AIミニインタビューにおいてペアで話された内容の検討、ペアやグループでの活動の各段階で学生が何を感じ、あるいは、どのような気づきを得ているのか、自分自身の保育者としての成長をどう感じ、保育者や保育実践や保育実践についてどのように理解を深めたと実感しているのか等についても検討する必要があるだろう。

#### 引用・参考文献

- 1) 和田明人・井上孝之・上村裕樹 (2010), 「対話による集合知の創生に関する研究—ホールシステム・アプローチの適用・試行—」, 『全国保育士養成協覧会第49回研究大会発表論文集』, 194-195.
- 2) 利根川智子・井上孝之・和田明人・上村裕樹・三浦主博・河合規仁・安藤節子・音山若穂 (2011), 「保育実習指導における対話型アプローチの一実践と効果検証についての基礎研究」, 『保育士養成研究』, 29, 21-30.
- 3) 三浦主博・音山若穂・藤本このみ (2012), 「保育実習指導への対話的アプローチ導入の試み」, 『東北生活文化大学・東北生活文化短期大学部紀要』, 43, 115-122.
- 4) 音山若穂・利根川智子・三浦主博・井上孝之 (2014), 「対話型アプローチを取り入れた演習プログラムの一試案—AI (Appreciative Inquiry) によるミニインタビュー—」, 『日本保育学会発表要旨集』, 653.
- 5) 三浦主博・音山若穂・井上孝之・利根川智子 (2015), 「対話型アプローチによる実習事後指導の試み—“AI ミニインタビュー”による振り返り—」, 『東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部紀要』, 46, 151-157.
- 6) 利根川智子・音山若穂・三浦主博・井上孝之・織田栄子・上村裕樹 (2015), 「保育者養成における学生の省察力育成の試み (1) —AI ミニ・インタビュー—」, 『日本教育心理学会総会発表論文集』, 57, 626.
- 7) 音山若穂・利根川智子・三浦主博・井上孝之・織田栄子・上村裕樹 (2015), 「保育者養成における学生の省察力育成の試み (2): 対話後の自己評価と省察尺度との関係」, 『日本教育心理学会発表論文集』, 57, 627.
- 8) 津村俊充・星野欣生・編 (2013) 『実践 人間関係づくりファシリテーション』 金子書房.

\*本研究はJSPS 科研費JP16K00740の助成を受けた。